琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.109
2023. December

発行者　琉球病院事務部長
大城　英作

基本理念　この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

当院でのクロザピン治療症例 400例到達のご報告とお礼

クロザピンセンター長　　木田　直也

2009年7月に国内で治療抵抗性統合失調症の治療薬であるクロザピン（CLZ）が上市されて14年になります。当院でも2010年2月から重度の精神症状を有する統合失調症の患者にCLZ治療を開始し、2023年10月にCLZの登録症例数が401例となりました。医療機関別にみると、これは国内で3番目に多い症例数となります。2015年7月には国内初のクロザピン治療専門病棟（56床）を当院に開設しました。現在、専門病棟で約50人、医療観察法病棟で約10人の患者にCLZによる入院治療を行い、専門外来では約100人の患者に通院移行後の治療を継続しています。CLZによる薬物療法を基礎にして、医師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士・心理士・薬剤師・栄養士などの専門職による心理社会的治療を丁寧に行うことで治療効果の最大化を図っています。また無顆粒球症、心筋炎・心筋症、けいれんなどの有害事象の発現防止と早期発見のために、血液・尿検査だけではなく、心エコー、心電図、胸部レントゲン、脳波、トロポニンT定性などの定期的な諸検査をクリニカルパスに組み込み、確実に実施することで安全性を担保しています。このような多職種チーム医療を実践することで、重度の精神症状のために入退院を繰り返したり、長期入院となったり、多飲水や暴力などの問題行動のために隔離や身体拘束を要する患者でも精神症状が大幅に改善し、行動制限が不要になり、退院して就労事業所へ通所を始めるなど社会復帰をする例も増えています。CLZ導入の際にはクロザリル患者モニタリングサービス（CPMS）登録病院での入院治療が必須となります。CLZ導入時の入院治療を当院の専門病棟で行い、退院後はかかりつけ病院の外来で通院治療を継続するという地域連携「沖縄モデル」を2014年に当院が中心となって立ち上げ、運営しています。県内の医療機関との連携も深まり、現在は新規登録症例の7割以上が紹介例となっています。こうした地域連携が厚生労働省の難治性精神疾患連携体制整備事業のモデル地域にも選ばれ、全国的にも注目されました。この取り組みを成功させることでCLZ治療の国内での更なる普及に繋げたいと考えています。この場を借りまして、関係者の皆様にCLZ治療に対する日頃のご尽力・ご協力に改めて感謝を申し上げます。引き続き、適応のある患者のご紹介をして下さるように宜しくお願いいたします。

看護部 教育部門

教育担当師長　　岩﨑　仁美

国立病院機構には、「ACTyナースver2」という看護職員能力開発プログラムがあります。これは、国立病院機構の役割を果たすために求められる看護師としての能力を開発していく教育体系です。①高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践する。②高い倫理観に基づいた、質の高い看護が提供できる。③多職種と共同し、看護の役割を発揮する。④病院経営に参画でき、看護におけるマネジメントができる。⑤後輩と共に学び合い、自律した看護職になる。⑥臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する。これらの能力を修得するために、各部署でのOJTを通して学んでいきます。また、教育委員会での集合教育では、ACTyナースに基づいて、琉球病院の精神科看護師として必要な研修を企画しています。これらの学びと実践が承認されてラダーレベル認定となります。精神科の看護師として、患者の願いや希望を受け止め、患者の回復と自立にむけた看護が実践できるよう、学びを深められる教育を企画していきたいと思います。

院　長

ふくじ　やすひで
福治　康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会評議員。
琉球大学医学部　臨床教授。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- クロザリル外来
- アルコール依存症等外来

病床数　353床

・精神（一般精神・クロザピン専門・精神科救急）	151床
・アルコール依存症	44床
・児童思春期ユニット	4床
・重症心身障がい	90床
・医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

路線バス　那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車　那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間　8:30 ～ 17:15（土・日・祝日・年末年始以外）
TEL　098-968-2133（代）
内線　231・234

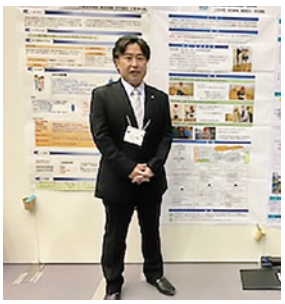
地域医療連携室（直通）

TEL　098-968-3550
FAX　098-968-7370

第77回　国立病院総合医学会

医療観察法病棟　　遠藤　洋子

2023年10月20日～21日に広島県で開催されました「第77回国立病院総合医学会」においてポスター発表を行いました。研究テーマは「医療観察法病棟に配属されて3年未満の看護師が対象者に抱く陰性感情とその対処法について」です。対象看護師に質問紙調査を行い、その分析結果を発表しました。発表はとても緊張しましたが、病院からの参加メンバーに見守られ、落ち着いて発表することができました。また、発表後の質疑応答、他病院の医療観察法に関する研究は興味深いものが多く、とてもよい刺激になりました。今回の貴重な経験と学びを今後の看護に活かしてまいります。

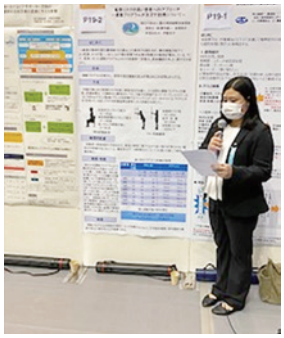


重症心身障害児(者)病棟　　中内　剛

10月に広島市で開催された第77回国立病院総合医学会に参加しました。強度行動障害による破衣を行う利用者の問題行動の改善についての研究発表を行いました。質疑応答や、他病院スタッフとの意見交換や話ができ、とても貴重で学びの多い日となりました。

本年度も、破衣行為に加えて弄便や他害など他の問題行動の改善に向けての研究を継続しています。今後も強度行動障害の看護について深めていきたいと思います。

社会復帰病棟　　新垣　心



今回、国立病院総合医学会に参加し「転倒リスクの高い患者へのアプローチ―運動プログラムが及ぼす効果について―」の演題で発表を行いました。フロアーからは発表後に「骨密度も合わせると違った結果になったのではないか」など助言を頂きました。また、他施設の発表には、感染対策や行動制限拡大の取り組み等、当病棟でも参考になる興味深い発表もあり、他施設での取り組みを学ぶことができました。

今後も自身の看護に活かせるよう、様々な角度から考えを深め精進していきたいです。研究するにあたり、病棟患者の皆様や病院スタッフ、沢山の方の支えで発表できたことに感謝しています。

DPAT活動報告

心理療法士　　諸見　秀太

11月2日に院内防災訓練を実施しました。今回の訓練は、令和5年度沖縄県広域地震・津波避難訓練に合わせて行い、金武町の防災無線や緊急速報メールを訓練開始とし、院内災害対策本部の立ち上げ、災害想定をもとにしたアクションカードに沿って各部署の被災状況を確認、院内の被災状況の情報収集を本部にて行いました。また当院では、災害時事業継続計画（BCPマニュアル）が作成されており、院内本部ならびに各部署は、それに基づいての初動・対応をすることを意識した訓練ともなりました。訓練後の振り返りでは、正確に迅速に行動することの大切さや、被災状況の報告における緊急度・優先度の在り方、災害対策委員会で取り組んできたことを実践できた、等の意見があがりました。次年度以降も院内防災訓練を継続して実施していくことにしており、災害拠点精神科病院として役割も想定した訓練も行う予定としています。

こども心療科

心理療法士　　我喜屋　良行

こども心療科では集団プログラムとして、中高生の女子を対象としたグループ（通称：女子グループ）を実施しています。グループはスタッフも全て女性で運営しており、少人数での活動（茶話会やクイズ、創作活動、調理など）を通して、同じくらいの年齢の人と触れ合う機会を提供したり、対人スキルの向上を目指したり、同じような体験を共有したりすることを目指しています。

「息抜きできる場所が欲しい」、「違う学校の子と話してみたい」、「一人ではできないけど、やってみたい趣味がある」、「少し緊張するけど、同年代の子と関わりたい」などの希望がある子たちが安心して集まれる、そんな場所になればと考えています。

日時：毎月第4火曜日　午後3～4時
期間：～2024年3月まで（予定）　※次年度の実施は参加者の希望を踏まえて検討します